

平成23年度岡山県農林水産総合センター水産研究所機関評価評価票（概要）

1 運営方針及び重点分野	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<b>助言、指摘事項等</b> 1. 豊かな海の恵みで地域を支える漁業の確立を目標に据え、「海と川の環境及び生態系の修復」、「水産資源回復と持続的利用」、「安全安心な水産物の安定供給」の三本柱を重点分野と定めて、県水産振興プランや研究所試験研究方針にしたがって運営されている。 2. 行政をはじめ、県内水産業界と共に討論を重ね、時代に即応した運営方針や重点分野を定めたことは適正であり、高く評価できる。中長期、短期的目標を明確にし、事業成果を形あるものとして残し、県内水産業の発展に寄与していただきたい。 3. 近年、本県漁業を取り巻く漁場・経済環境がめまぐるしく変化しているなか、振興プランに沿いつつ、年度ごとの対応を期待する。 4. 岡山県唯一の水産研究施設として、水産資源の安定供給や安心安全に取り組む姿勢は大変評価できる。					
2 組織体制及び人員配置並びに予算配分	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 3人	見直しが必要 2人	全面的見直しが必要 0人
<b>助言、指摘事項等</b> 1. 総合センターへの統合前の組織体制を踏襲する形で人員配置が定められている。研究課題を個人が選ぶ場合と、割当てられる場合があるようだが、将来的には全員が複数プロジェクトに参加できる体制があればよいと考える。 2. 競争的獲得資金の広域型プロジェクトの予算が増えているのは喜ばしいことではあるが、現場対応型の単県事業費が削減され、岡山県の海域特性に合った速効的な研究の経費が少なくなっているのは残念である。組織、人員配置については種々の制約の下ではベターといえる。 3. 水産資源の豊かさを支配する基本的要素は、水域環境である。それを監視する水圏環境室は、重要な役目を担っている。水域環境の監視には、空間分布と時系列のきめ細かい観測データの収集・整理が重要かつ不可欠であり、それだけでも多忙であるにもかかわらず、4名という人員配置では不足である。 4. 新しい組織と施設で事業が始まり、取り組んでいる各研究の成果を期待しているが、将来更に研究テーマが多様化することと思われるので、財政が厳しい折とは思いますが人員の強化が必要である。 5. 組織体制に大きな問題は見受けられないが人員の配置が少ない部署も見受けられる。予算については、削減も厳しい中、外部資金を取り入れる姿勢は大変評価できる。					
3 施設・設備等	非常に優れている 1人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<b>助言、指摘事項等</b> 1. 申請を検討中の研究課題や外部資金によって獲得された物品についても記載すべきであろう。また、現有の機器類についても型式・数量・摘要、さらに、組織全体で活用した実績・状況を示しておく必要がある。 2. 新研究棟が完成し、効率よく研究開発が進められると思うが、他県の水産研究施設と比べると見劣りがする。また、旧栽培漁業センター施設は老朽化しており、安心安全な施設とは言い難い。予算の制約はあるが、計画的に修理をするとともに使用しない設備の取り壊し、廃棄を行っていく必要がある。新研究棟の設備、機器は十分ではないので、農林水産総合センターの他研究所との連携・協力体制を強化し、他研究所の機器等を自由に使用できるように図ってほしい。 3. 将来、近海の人工衛星情報をリアルタイムで収集するシステムが導入されてもいいのではないか。 4. 新しい施設・設備の有効な活用を望むとともに、今後の研究成果に期待する。また、迅速な栄養塩速報や各種水域環境の分析・発表に係る設備などの更なる充実を期待する。					
4 研究成果	非常に優れている 0人	優れている 5人	妥当 1人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
<b>助言、指摘事項等</b> 1. 最近終了した課題も含めると30件に及ぶ研究が行われ、順調に運営されている。成果発表のうち水研報告への発表件数は、例えば研究室・個人単位で目標を設定することで					

- 安定化させ、研究面の広報とすべきであろう。
2. 研究課題によっては成果の出にくいものもあるのは致し方ないが、成果として出たものについては投稿、発表等によって外部への発信を積極的に行って欲しい。研究を行うにあたっては、結果を待ってから考えるのではなく、計画段階でどのようにまとめるか十分に構想を練っておく必要がある。現場対応型の研究は、「現場への応用を実施して初めて完了する」という気持ちで行う必要がある。  
課題毎の成果は着々と上がっていると感じる。
  3. 環境と生態系に関する調査は、研究所における最も重要な研究課題であると考えられる。長期的な視野に立って、これまでの綿密な調査の継続が望まれる。また、密度流拡散装置を利用した環境修復研究が期待される。
  4. 限られた研究員、研究費の中での研究成果は評価できるものと思われる。これらの研究成果が実生活の中に還元されることを期待する。
  5. 各分野とも本県漁業が現在必要としている課題に取り組んでいただけている。特に単県・補助事業の予算的拡充を期待する。
  6. 広く県民のニーズに適した課題に偏りなく取り組まれている。

5 技術相談・指導、普及業務、行政検査、依頼試験等の実施状況	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------------------------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 技術相談・指導など、研究以外の日常業務も適切にこなしていると見受けられる。
  2. 技術相談・指導、普及業務の減少は養殖経営体数の減少に伴うものであり、やむを得ないと思われる。  
県民への普及啓発として見学や視察の受け入れを行っているが、より積極的な形で小学校やPTA、婦人会や老人会に対して出前授業のようなものを考えてみてはどうか。要請がなければ出来ないが、若い研究者の勉強のためにも実施してはどうか。
  3. 牛窓沖の海水温情報は、貴重である。長期にわたる数値化情報の提供が望まれる。気象庁のように、開設以来の気象情報を、10分間、1日、1月、1年ごとにまとめてネットで提供されると、環境の長期、短期変動がよく判り、極めて有用な情報となる。
  4. ノリ・カキ養殖などの細かい質問などに適時対応する窓口の設置をお願いする。
  5. 年々、相談及び指導件数が減少傾向にあるのが気になる。

6 人材育成	非常に優れている 0人	優れている 2人	妥当 3人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
--------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 行われている人材育成は適切であると感じられる。
  2. 限られた予算、人員で種々な研修会に参加させて人材育成を図っているのは、良いことだと思う。難しいことではあるが、有望な若手研究者に数ヶ月程度の最新技術、理論の勉強に派遣できるような制度があればと思う。人材育成は研修を受けるだけではなく、学会等への発表や投稿を積極的にさせることも人材育成の一方策だと考える。オールラウンド（平均点）型ではなく、スペシャリストを育てて欲しい。
  3. 研修は、単なる研修を超えて、それを通して新たな研究の視点が芽生えることがあり、横の連携も生まれるので重要である。
  4. 研究員の研究会への参加により資質の向上を望む。
  5. 少ない人数で多くの課題に取り組んでいる大変さを推察する。限られた分野に留まらず、本県水産全体が見渡せる人材育成を期待する。研修会等積極的に参加すべきである。

7 他機関との連携	非常に優れている 1人	優れている 3人	妥当 2人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
-----------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

- 助言、指摘事項等**
1. 良好である。共同成果の水研報告への発表なども検討されたい。
  2. 独立機関としての水産試験場から農林水産総合センターに統合され、水産研究所として生まれ変わったので、農業、林業、畜産業とも連携し、水圏環境の問題にも取り組んで欲しい。大学や他県研究機関との連携協力体制はよく確立されていると思う。
  3. 研究所の少ない人員では、研究活動の範囲が限られる。そういう中で、積極的に他機関との研究連携が強化され、相互に研究の成果が実る方向で、益々、共同研究が推進されることが望まれる。
  4. 受託事業などで共同での取り組みが多くなっているが、瀬戸内エリアでの成果や知見のとりまとめに期待する。
  5. 産学官とも連携が取れている。

8 県民への情報発信	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 4人	見直しが必要 1人	全面的見直しが必要 0人
------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

**助言、指摘事項等**

1. ホームページはパンフレットより有効であるかもしれない。
2. 企画連絡室のような部署があれば、双方向に情報がやりとりできるが、現在の体制・人員では不可能であるので、一方的ではあるがホームページの充実を図るしか方法はないと思える。マスコミを上手く利用して水産研究所をアピールしてもらいたい。
3. 海水温などの数値化された統計情報の提供が望まれる。
4. 将来を担う小中高校生にも海や魚介類、水産業に関心をもってもらえるような情報発信の企画が必要である。見学、体験学習の推進にも繋がっていく。
5. ホームページなどを利用した成果発表、話題提供など身近でわかりやすい情報発信をお願いする。

9 前回指摘事項への対応	非常に優れている 0人	優れている 1人	妥当 5人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
--------------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

**助言、指摘事項等**

1. 前は旧体制であったので、真の対応評価は次回が最初になる。
2. 学会発表を目指す研究が、基本的に研究の活性化につながると考えられるので、とくに若い研究者の育成に努力してほしい
3. 的確に対応・処理されている。前向きに努力されていると思う。(新研究棟の整備、競争的資金の獲得など)

総合評価	非常に優れている 0人	優れている 6人	妥当 0人	見直しが必要 0人	全面的見直しが必要 0人
------	----------------	-------------	----------	--------------	-----------------

**助言、指摘事項等**

1. 水産業を取巻く環境変化には複雑かつ目まぐるしいものがあるが、これらに対処しつつ水産振興プランに沿った目標に即した研究方針、重点分野を定め、これに対応できる組織体制をとって、さらに課題を掘起していく運営は発展性があり、整合性のとれたものである。個々の評価は標準的な“妥当”であるが、足並みが揃っているということで“優れている”としたい。
2. 水産研究所を取り巻く環境は、非常に厳しいものがあるが、その中で全国発信できる素晴らしい成果も上がっており、今後の研究の発展を大いに期待される研究もある。今後とも社会的ニーズを現場からいち早くくみ取り、応用可能な技術を開発していってもらいたい。事業計画書の段階での期待できる成果と事業終了時における成果がかなり離れた事業が見受けられる。大体にして行政対応型の事業に多いが、余り誇大宣伝をせず現実に合った実現可能な計画を立てて欲しい。(行政・業界から)無理難題を押しつけられるのはこれからもあると思うが、研究機関としてはその中でどのような成果を出せるか冷静に検討して欲しい。たとえ最終目標に遙かに及ばない結果になっても、調査結果、実験結果を論文等の形で残して欲しい。人材育成と重複するが、岡山県水産研究所としての得意分野を伸ばすためにも、高度な知識・技術を持った研究者を育成して欲しい。数年経過したからといって機械的に人事異動、業務変更させずに、熱意と成果を勘案して長年に渡っても引き続き同一テーマ、研究に没頭できる体制を作って欲しい。
3. 限られた人員にもかかわらず、多彩な成果が得られており、評価される。近年、陸域、海域の温度、水質の変化が大きく、それが水産生産に影響を与えていることは明らかである。水域環境の監視機関である水産研究所における監視業務は、その意味で必要であり、将来にわたる長期的な視点にたった環境監視が、今後、ますます重要性を増すものと考えられる。
4. 組織体制の変化、研究費の削減など研究所を取り巻く環境に大きな変化があったにもかかわらず、一定の成果が上げられたと評価できる。
5. 新しい環境での取り組みに期待する。予算の都合・課題の特性などにより単年から3年程度の事業が多いが、得られた成果の応用、実地検証、さらに実用化に向けての取り組みに期待する。継続的にステージを踏みながら実用にこぎつけ、本県水産に経済的に寄与できる長いスパンでの研究を願う。
6. 大変厳しい環境の中、水産資源の安定供給や安心安全のための研究課題に、外部資金を調達し頑張っていると思う。